

[申し込み方法]

事前申込制(先着順)です。フォームよりお申し込みください。ご参加にあたってのご相談やご質問がある場合は、申し込み時または問い合わせ先よりお知らせください。

定員30名
先着順
締切
8月18日(月)18:00



申し込みフォーム

[本事業について]

HAPSは若手芸術家が京都市内に居住し、活動し続けることができる環境を整えるために、居住・制作・発表、仕事コーディネートなどの包括的な支援活動をおこなう組織です。2017年度からは文化芸術の力を活用して、多様な背景を持つ人々が共に生きることのできる社会のあり方を探り、その仕組みづくりを目指す事業も実施しています。2022年度より「障害者等による文化芸術活動推進事業」を文化庁から受託し、公立美術館における障がい者等による文化芸術活動を促進させるための事業にも取り組んでいます。

この事業では、公立美術館における障がい者等の関わる文化芸術活動(発表、鑑賞)に関する多面的な手法を大きく発展させ、積極的に活動に取り組める状況を創出することを目指しています。公立美術館の学芸員、教育・普及担当員等の職員、アーティスト、現代美術のキュレーターらとともにその基盤を作ることを目的とし、カンファレンス(交流・共有・学びの場づくり)、リサーチ、パイロット事業、未来の美術館構想講座、アーカイビング、事業評価を行っています。

[アクセスマップ／問い合わせ]

[会場] やまなみ工房

〒520-3321 滋賀県甲賀市甲南町葛木872
※本事業にご参加の場合はJR甲南駅より送迎バスをご利用ください

[連絡・問い合わせ先]

一般社団法人HAPS (Social Work / Art Conference)
swac@haps-kyoto.com / TEL 075-748-8575
〒601-8004 京都市南区東九条東山王町1 HAPS HOUSE

文化庁委託事業「令和7年度障害者等による文化芸術活動推進事業」
「美術館」と「障がい」の再検討と実践の共有

主催 || 文化庁 | 一般社団法人HAPS
協力 || 京都市 | やまなみ工房



「作品」が生まれる..... 現場から

障がいのある人の
「作品」について考える研修会

見えてくる

ものは

何か？

【対象】
美術館等の文化施設で
勤務している学芸員
参加費無料

2025年8月29日(金)
11:00—17:00 ※交流会含む

[申込締切] 8月18日(月) 18:00

[会場] やまなみ工房

〒520-3321 滋賀県甲賀市甲南町葛木872
JR甲南駅から送迎バスあり



文化庁

HAPS

SW/AC
Social Work / Art Conference

文化庁委託事業「障害者等による文化芸術活動推進事業」の一環で2022年から行ってきたカンファレンスは、美術館で勤務する学芸員に参加を呼びかけ、障がいとアートが交差する領域で議論すべきトピックを共に整理するところから始まりました。昨年度は従来の「作品」の概念を揺らす障がいのある人の関わる制作・表現活動の事例を共有し、そこでの議論をもとに美術館で障がいのある人の「作品」を取りあげる際に課題となりそうな「問い」をまとめ、考えるためのヒントを記した冊子(下記参照)を発行しています。

今年度のカンファレンスは、「障がいのある人の「作品」について考える研修会」として、「作品」が生まれる現場から明らかになること、作品研究や展示に寄与するリソースを増やす新たな手法を模索します。障がいのある人の生活を支え、それぞれの人に沿う表現活動に取り組む、滋賀県甲賀市にあるやまなみ工房を実際に訪問し、「作品」そのものをじっくりと鑑賞したのち、「作品」を取り巻く様々な人、制度、空間にも目を向けて議論を深めることを目指します。学芸員同士の交流や情報交換も兼ねた企画となっています。ぜひご参加をご検討ください。

企画・進行 Social Work / Art Conference(SW/AC)
京都市で芸術家の制作・発表・居住支援を行う一般社団法人HAPSが、2020年に新たに開設した相談事業です。福祉をはじめとする多様な分野と文化芸術をつなぐため、専門家の知見を活かしながら、社会課題を探索し制作するアーティストや、よりひらかれた活動を目指す事業者や文化施設などからの相談に対応しています。

『障がいのある人の「作品」と美術館 ～学芸員と考える10の問い～』



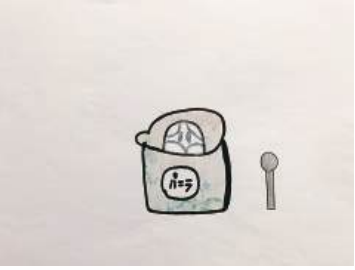
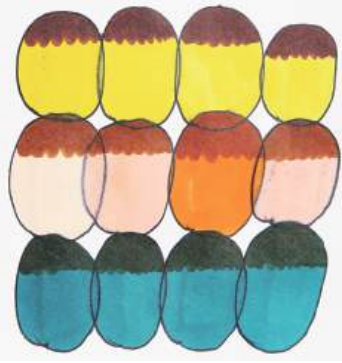
PDF版はこちらから
ご覧いただけます。

2024年度に本事業で話し合われたキーワードを、障がいのある人の作品を扱う際に生まれる「問い」としてまとめた記録冊子。PDF版を無料公開中。

「カンファレンスで取り上げる作家」

西橋直樹

1994 年生まれ。2013年から「やまなみ工房」に所属。毎週金曜日に必ずたこ焼きを食べる習慣があり、その2日前に欠かさずたこ焼きの絵を描いて母親に渡して確認を行う。

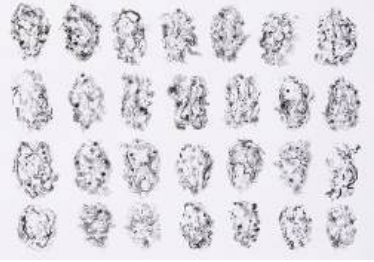


左:《たこ焼き》(2019／紙、マーカーペン、ペン／257×182mm)

右:《パニラ》(2019／紙、マーカーペン、ペン／210×295mm)

森雅樹

1969年生まれ。2016年から「やまなみ工房」に所属。専門学校にてグラフィックデザインを学ぶ過程でアメリカ実験音楽に興味を持つ。現在は音響空間の可視化を目指したドローイング作品を制作している。



左 《エレクトロニック・マサダ #1》(2016／紙、絵の具／380×540mm)

右 《貝の眼》(2019／キャンバス、アクリル絵の具／1620×1300mm)

山本愛

1985年生まれ。2004年から「やまなみ工房」に所属。身近にいる仲間や職員をモチーフに、掌でこすり合わせた微量の陶土を植え付けていく立体作品やドローイングを制作している。



左:《かお》(2014／陶土／200×300×300mm)

右:《かお》(2017／陶土／350×280×290mm)

「タイムテーブル／プログラム」

10:30	JR草津線 甲南駅改札口外で集合と受付。送迎バス出発。（交通費は各自ご負担ください。）
11:00	作品鑑賞 やまなみ工房で創作活動を行う3名の作品を鑑賞し、アトリエ見学に向けて作品の特徴や疑問などをグループ内で共有します。
12:00	昼休憩 やまなみ工房のカフェのランチをご予約可能です(実費1500円程度必要)。お申し込み時にご予約ください。ご自身で昼食をご持参いただくことも可能です。
13:00	アトリエ見学 作品鑑賞で取り上げた3名の作家が普段活動をしているアトリエを訪問します。作品がどのような場所で作られているか、支援者とどのようにコミュニケーションを取っているかなど、現場でしか得られない情報も参考にしながら作品をより深く考察していきます。
14:00	ラウンドテーブル 障がいのある人の「作品」を扱う際に生まれる問いにはどのようなものがあるのでしょうか。また彼らを支援する福祉施設では利用者の創作物が「作品」となることをどのように考えているのでしょうか。異なる立場の登壇者3名によるラウンドテーブルを通じて、一日のプログラムを振り返り、「作品」が生まれる現場からどんなことが見えてきたかを話し合います。 [登壇者プロフィール] 山下完和 社会福祉法人やまなみ会やまなみ工房施設長 1989年5月から、障害者無認可作業所「やまなみ共同作業所」に支援員として勤務。その後1990年に「アトリエころぼっくる」を立ち上げ、個性豊かに自分らしく生きる事を目的に様々な表現活動に取り組む。2008年5月からやまなみ工房の施設長に就任し現在に至る。 藪前知子 東京都現代美術館学芸員 近年の主な展覧会は「石岡瑛子 血が、汗が、涙がデザインできるか」(2020-2021年)、「日本現代美術私観：高橋龍太郎コレクション」(2024年)、「岡崎乾二郎 而今而後 ジコンジゴ」(2025年)(いずれも東京都現代美術館)。また本事業の一環で2023年度に実施した「キュレーションを公平に拡張する vol.2」のゲストキュレーターとして展覧会「君のための絵」を企画。 奥山理子 Social Work / Art Conferenceディレクター、みずのき美術館キュレーター 障害者支援施設みずのきでのボランティア活動を経て、2012年みずのき美術館の立ち上げに携わり、以降同館の企画運営を担う。2019年よりHAPSの「文化芸術による共生社会実現に向けた基盤づくり事業」にディレクターのひとりとして参画。
15:45ごろ	交流会 参加者同士の情報交換や交流の時間です。今後のネットワークとしてご活用ください。（一時間程度）
17:00	やまなみ工房からJR甲南駅行き送迎バス出発。甲南駅北口解散。

「やまなみ工房について」

滋賀県甲賀市にある障害者福祉施設。施設を利用する約90名の障がいのある人たちが、スタッフとともに個性と魅力を活かした様々な表現活動に取り組んでいる。近年多くの作品が展覧会で紹介されたり、洋服や商品等のデザインに使用されたりする他、ポートレート集や作品集、やまなみ工房を舞台としたドキュメンタリー映画が全国各地で上映される等、幅広く社会へ発信される取り組みが国内外から注目を集めている。また施設内にギャラリー、カフェ、ショップ、多目的スペースが併設され、訪れる人がそれぞれに滞在を楽しむことができる。

